

2026年度（令和8年度）事業計画書（案）

障害者支援施設 久保更生園

1 施設を取り巻く現状と課題

（1）事業の種類及び利用定員

- | | |
|------------|-----|
| ① 生活介護事業 | 60名 |
| ② 施設入所支援事業 | 60名 |
| ③ 短期入所事業 | 2名 |

（2）県市町村等からの委託、補助事業等

- ① 由布市緊急時入所支援事業

（3）地域における公益的な取組

- ① 子ども工作教室
- ② 緒方町チューリップフェスタボランティア
- ③ 障がい者の学び支援事業 「ゆふボきらきら教室」

（4）運営方針

令和8年度も、重度高齢化が進む中で、利用者があんしんして安全に過ごせる環境づくりを進めるとともに関係機関との連携を強化し最後まで、1人ひとりに寄り添ったサービス提供を実現するため、チーム力の向上と職員のスキルアップに取り組んでいきます。

利用者の特性に応じた環境整備はもちろん、体力的負担の軽減を含めた職員の働きやすい職場づくりにも力を入れ、当園に適した介護機器の導入や各種スキルアップ研修を実施し支援技術の向上を通して、誰もが働きやすいチーム体制を強化します。また、利用者の意思決定を尊重しながら個々に合ったサービス提供に努めます。そのために日頃からご家族・関係機関等との繋がりを大切に連携強化を図ります。

また、来年度から義務化される地域移行等の意向確認にも適切に対応し、1人1ひとりが望む生活の実現に向けて取り組んでいきます。

併せて、日々の業務については、情報伝達・共有の仕組みを整え、PDCAサイクルを活用した業務改善を進めるとともに、当施設に適したICT・DX化にも取り組み、業務の効率化を図ります。最後に、国際貢献として外国人技能実習生の受入を行うことで、全職員が高い意識を持ちサービスの提供に誇りを持って取り組めるチーム作りを目指します。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	法人制度の周知及び人材育成
現状と課題	現在、子育て支援制度・多様な働き方については周知されており活用されている。しかし資格応援制度等の活用が十分でないため周知しながら、個人のスキルアップを図る。
取組の方向性	引き続き多様な働き方を推奨するとともに、法人制度の活用につなげ個々のスキルアップを図る。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	組織体制の強化を図りチーム力を向上
現状と課題	利用者の重度化高齢化が進む中、職員の身体的負担が増えているため、より一層のチーム力が求められる。また、外国人技能実習生の受入を行うため、OJT 制度の更なる向上が求められる。
取組の方向性	役割分担を明確にし役割に合った演習参加を計画的に実施する。また、チーム力向上のために、報連相の徹底を図る。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	職場内の関係作りの構築
現状と課題	誰もが提案しやすい環境になっているので、引き続き提案したことについて実施していき、達成感を感じモチベーションにつなげていく。課題としては、利用者の重度高齢化に伴い新たな活動が難しくなっていることが現状である。
取組の方向性	縦・横の繋がりの強化を図り、より柔軟な発想を尊重し、1人ひとりの職員が達成感を感じながら、充実した環境で働ける職場作りを行う。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	効率的かつ効果的な業務改善
現状と課題	利用者支援（業務時間）が終わってから各自の事務業務に入らざるを得ない現状があり、時間外業務を強いる事に繋がっている。特に記録業務に関しては障がい福祉サービスにおいて重要性が高く、利用者支援の充実にも繋がる観点から、優先して課題解決に取り組む必要がある。

取組の方向性	AI の導入により文字起こしなど取れる手段が増えているため、現場の実情に合った形で導入が可能かどうか今後も検討を続けていく。
--------	--

(2) 利用児者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	専門的な知識や技術の向上
現状と課題	研修参加について、現状では正規職員の数に限りがあり、利用者支援を優先する事により、一部の研修参加を控える事があった。サービス提供については、一人一人が考え提供することの大切さを理解しているが、内容によっては実施できていないこともある。
取組の方向性	① 研修内容・日時を精査し可能な限り参加に繋げる。 ② より計画性を持ち、勤務に反映させる。

イ 安全安心で快適な暮らしを保証し、利用児者の満足度を高める。

実施施策	快適な生活に向けた居住空間の整備
現状と課題	障がい特性による不衛生な環境や、居室の4人部屋から生じるプライバシーの問題が見られる。施設全体の老朽化もあり、重度高齢化する利用者のニーズに対応しきれていない。
取組の方向性	課題となる生活環境を洗い出し、専門業者の意見も取り入れながら改善計画を立て、優先順位をつけて実施していく。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域交流
現状と課題	地域行事には積極的に参加している。課題としては、参加利用者が限定的になっており、重度の方の参加が出来ていない。
取組の方向性	① 地域や行政との連携を強化し、作品展や地域のイベント等へ積極的に参加する。 ② 保護者との関係を密にし、一緒になって行事参加を実施する。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用率の向上と安定した収入の確保
現状と課題	今後高齢化に伴い、利用率の低下が予想される。併せて支援の

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	執行見積額
北棟支援室テーブル	1 0 0
南唐ソファ	1 0 0

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

名 称	執行見積額
お風呂場修繕	3, 0 1 0
南棟居室のドア	6 0 0
2 階男子トイレプライバシー保護具	1 0 0
床の張り替え（廊下など）	6 0 0
食堂ドア	2 0 0

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	執行見積額
なし	